

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)
事業所職員向け

討議年月日:令和5年11月8日

事業所名: ハピネス国際キッズサポート2353400720

公表:令和5年12月06日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	広くなるように、工夫をしている。コロナ対策で、密にならないよう工夫している。	適宜、机の配置等検討していく
	② 職員の配置数は適切である	8	0		
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされている	8	0	ロッカーや部屋など、分かりやすく表示し、明るくしている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	掃除にて清潔を保ち、壁飾り等明るいデコレーションと、勉強部屋は落ち着いて集中できるような設置を行っている。	常に見直しをこころがけていきたい
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	8	0	話し合っており決めている。	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	いつも、保護者との相談や、モニタリングをして利用者の現状を把握し、業務改善を行っている。	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	毎年、10月にアンケート実施	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	社内研修を月1回行っている。コロナ禍が5種にダウンしてからは、公的研修も増え、参加している。	
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0		
	⑪ 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化したアセスメントツールを使用している	8	0		
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0		
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0		
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	チームワークはとても大切なので、職員の意見を聞いて活動プログラムを立てている。	
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	子ども達の成長のために、職員が子ども達のニーズに応じて、工夫して適切な活動プログラムを行っている。	発達状況や、課題に合ったプログラムを、さらに工夫していきたい。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0		
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	打ち合わせや会議を頻繁に行っている。毎日、時間を決めて行っている。	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	翌日に行っている。	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	毎日は、ミーティングノートやリムを利用して、記録している。また、モニタリング記録等を行っている。	
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	モニタリング時に、保護者と協議し、見直しを行っている。		



関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	8	0		
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	0	8	利用者による	
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	8	該当者なし 薬の服用については行っている	現在は、直接ケアは必要ないが、アレルギー等の観察支援を行っている。
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	8	該当者なし	
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	8	該当者なし	
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	8	該当者なし	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	2	そのような機会がない
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	2	2	送迎時に、話す機会がある。
	㉙ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	8		
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	常に注意を払い、気づいた点はすぐに連絡を取り合っている。	
保護者への説明責任等	㉛ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	0	時間等が限られているが、電話相談に応じて支援を行っている。	
	㉜ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0		
	㉝ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0		
	㉞ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	学校や、普段の生活の悩みの相談をしている。保護者とコミュニケーションを取ることで、適切な支援を行っている。	
	㉟ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	3	3	保護者の連携を高めるため、ハピネスパーティーやハピネスコービーのプログラムを立てていたが、コロナの影響でできなかった。
	㊱ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0		
	㊲ 定期的に会報等を行い、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	季刊で写真掲載のニュースを発行している。月1回程度、各訪問時や電話も用いている。	
	㊳ 個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	職員がお互いに協力し、適切な対応を行っている。個人情報について、毎年研修を行い、啓蒙している。	
	㊴ 障がいの子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0		
	㊵ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	3	3	コロナ禍で、行っていない。
非常時等の対応	㊶ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	掲示するとともに研修でシミュレーションを行っている。	
	㊷ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	年2回実施している。	
	㊸ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	入所前に、アセスメントを行っている。	
	㊹ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	食事や誕生日会時では、食物アレルギーを含まない食材で、差別をなくしている。	
	㊺ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0		
	㊻ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	定期的に話している。職員がお互いに協力し、適切な対応を行っている。	
	㊼ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	やむを得ず身体拘束を行う可能性のある場合は、あらかじめ書面にて説明し、承諾を得、支援計画に記載している。	

【事業所における自己評価集計結果グラフ】

